

# 「電気部門の変革2022」について 提案を受ける！ NO.1

地本は秋田支社より「電気部門の変革 2022」についての提案を受けました。本施策では電力の大館MC、羽後本荘MC、信号の東能代MC、羽後本荘MCを廃止し、統廃合及びTEMSへの業務移管が実施されるほか、技術センターにおける業務の簡素化、スマートメンテナンス導入による標準数の見直しなど、2022年度まで多岐にわたる施策が提案されています。秋田地本は急速な社員数の減少や環境変化を踏まえつつパートナー会社を含む電気部門で働く全ての仲間の安全・健康・働きがいを持って技術力を向上となる施策を創り出すため、今後団体交渉を行ってまいります！

## 『電気部門の変革2022』について 提案(要旨)

電気部門は、『変革2022』で掲げたビジョンを具現化するため、最新技術導入を積極的に行い「設備のシステムチェンジ」「スマートメンテナンス」「工事の機械化・効率化」を3本柱として、メンテナンス業務等を変革していく。更に、安全の確保をベースに、これらの3本柱等により、「技術的な判断業務に注力」する働き方を実現する。

3本柱を推進しつつ、生産性の高い業務執行体制を目指し、「パートナー会社と連携し効率的にメンテナンスする組織」を構築し、業務のスリム化等を合わせて実施することで、電気部門のメンテナンス体制を変革していく。

### ○実施事項

#### (1) 電気部門の在来線の効率的なメンテナンス体制の確立

パートナー会社との連携を更に深めることで、より効率に業務を推進できる体制とし、現在移管している検査業務等に加え、保全実施計画の作成やパートナー会社単独での障害復旧対応等を拡大していく。なお、設備管理に対する最終的な判断は、当社社員が実施する。

- ① 当社で実施してきた保全実施計画や検査等メンテナンス業務をパートナー会社へ移管(移管先会社:TEMS)
- ② 組織等の見直し 移管拡大等により一部MCを統廃合。

電力:大館MCを廃止し、一部管理業務を弘前MCに統合 羽後本荘MCを廃止し、一部管理業務を秋田MCに統合  
信号:東能代MC・羽後本荘MCを廃止し、一部管理業務を秋田MCに統合

#### (2) 技術センターにおける業務の簡素化

積算、契約業務の制度及び信号技術者認定制度の適応範囲の見直し等を行い、技術センター業務の簡素化を図る。

- ① 小規模・少額工事の適用拡大、一般工事の単金化、統合作業乗率の集約等を実施  
支社発注工事の信号試験における信号技術者認定制度の適用範囲拡大
- ② 工事制度見直しによる効率的な積算、契約の実施による業務の見直し

#### (3) スマートメンテナンス導入等によるメンテナンス業務のスリム化

技術開発を進めている架線モニタリング装置を活用し、新たに同装置による検査を線条及び金具類確認方法の一つに加え、全体として適切な頻度で検査を実施する検査体系の見直し等を図る。

- ① モニタリング導入等に伴う、従来の検査(至近距離検査、外観検査等)や取替周期の最適化
- ② 電車線モニタリングによるメンテナンス業務の見直し・転てつ機モニタリング、ボンドモニタリング等による検査業務の見直し

#### (4) 異常時対応

電気部門の社員は安全・安定輸送の確保を最大の使命とし、組織体制の見直し後においても、異常時にはパートナー会社とも連携し、協力して対応する。

◆実施日 2019年4月1日

※スケジュール

実施項目	2018	2019	2020	2021	2022
電気部門の効率的なメンテナンス体制の確立及び異常時対応	準備期間	▼			
技術センターにおける業務の簡素化	準備期間		▼		
スマートメンテナンス導入等によるメンテナンス業務のスリム化	順次メニュー準備期間		▼ボンドモニタリング導入	▼検測車モニタリング導入	

※上記はスマートメンテナンスの一例

NO.2へ続く